

## 2 石川県立大学



航空写真

### <設計コンセプト>

21世紀を迎え、地球規模の環境保全が叫ばれている中、将来を担う子供たちに負担を残さない、持続可能な人類発展こそが、今求められている命題であると考えます。そして、その命題を解決する大きな担い手は、農業を出発点に発達してきたバイオテクノロジーの先端技術であり、その研究者である。設計に際しては、農林水産業に関する知識の習得のみならず、このような先端技術の研究開発を産官学一体で行い、創造性豊かな技術開発や、研究者を生み出す大学を目指した。地域社会から地域環境へと広がる環境教育の中心となる「開かれた大学」の実現を設計理念として掲げ、「交流と連携」をキーワードとした施設設計を行っている。

### <交流と連携>

共通施設、3つの学科棟を手と手がとりあうように配置することで「交流と連携」を表現している。学生や、教官らの動線の交わる位置にパティオ・学科ラウンジ等の内部交流空間を設け、創造性豊かな発想を生み出せるゆとりある建築空間を実現した。また、外部には地域住民などとのさまざまな交流を想定したスケールの異なる外部交流空間（プロムナード、プラザ、中庭）を設けた。



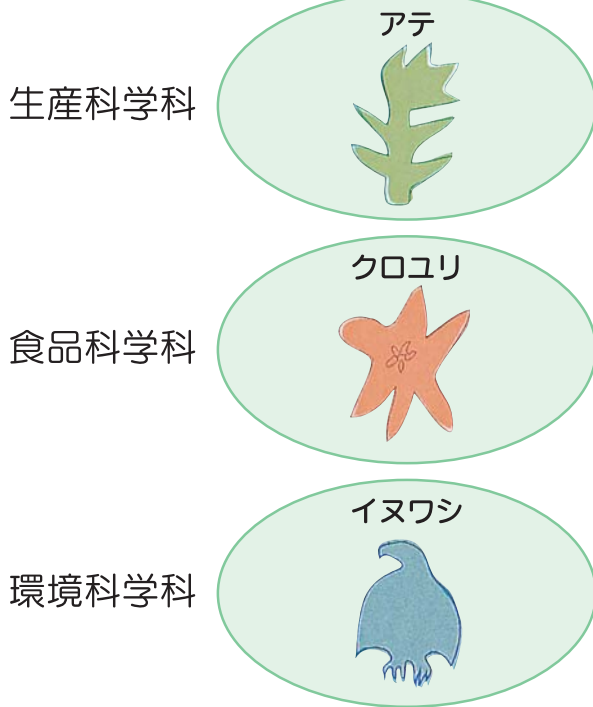
中庭よりエントランスホールを見る



プラザより図書・情報センターを見る



## 学科のマスコットマーク



輪島塗によるベンチ

### <伝統工芸と建築>

「交流と連携」の象徴として、石川県の伝統工芸と現代的な建築空間との共同を試みた。

・ 輪島、山中塗との共同

山中塗は木目のふき取りとの鮮やかな赤を活かしてデザインし、大講義室のサインとして、輪島塗は鏡面に磨いた漆黒のパネルと透明な強化ガラスとの対比を活かしたデザインを考慮。

・ 九谷焼とサイン計画の融合

生産・食品・環境の3学科それぞれに、九谷五彩のうち3色を与え、県の鳥・花・木をモチーフとしたグラフィックサインを作成した。それらを組み合わせた九谷焼タイル（皿）を総合案内サインと共に設置している。明るい色とともに親しみやすいかたちを与えることで、訪れる人やそこで生活する学生たちが楽しい気持ちになるよう、家具の配置なども含めて考慮した。

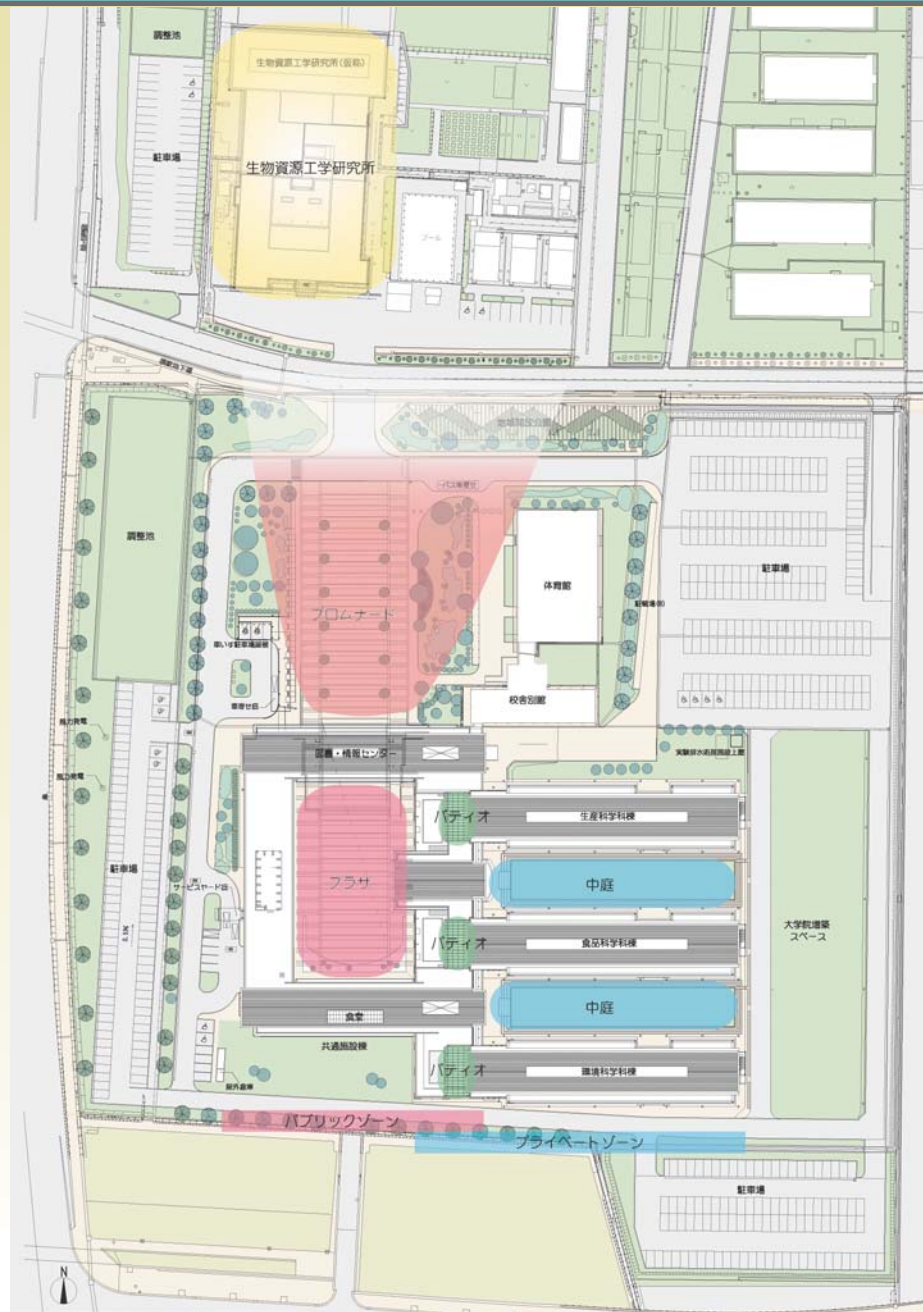


山中塗によるサイン



九谷焼タイル

全体配置図



<設計趣旨>

地域に開かれた大学として「県民のための生涯学習の機会の提供」、「地域環境の保全」、「地域産業の持続的発展への貢献」を目指す。

1. 地域住民がアプローチしやすく、利用しやすい施設ゾーニング（プロムナード、プラザ）
2. 地域住民の生涯学習の場を提供する施設計画（図書・情報センター、大講義室）
3. 産官学の連携を生み出す施設計画（生物資源工学研究所を中心とした連携）
4. 地域に溶け込み環境に貢献するエコスクール（環境配慮、省エネ計画）



地域と大学の交流の場…プロムナード



学科単位の交流の場…中庭





エントランスホール



大講義室






食堂



図書・情報センター

風力発電・太陽光発電による自然エネルギーの利用や、パティオによる自然換気・通風の促進、リサイクル製品の活用など、地球環境保全の基幹となるエコ・スクールを目指した。外観は、手取川の土色をイメージするせっき質タイルによる土色でまとめ、切妻屋根の連続が借景でもある白山連峰を想起させるなど、景観に配慮している。また、できるだけ現農業短期大学敷地内の樹木を残すよう、外構計画を行った。

-  : インターロッキング
-  : パティオによる自然換気・通風の促進
-  : 風力発電・太陽光発電による自然エネルギーの利用

DATA

石川郡野々市町末松地内  
平成15年10月～平成16年8月  
19,909㎡

共通施設棟  
RC・SRC・S造：3F  
8,613㎡

環境科学科棟  
RC・S造：3F  
3,765㎡

食品科学科棟  
RC・S造：3F  
3,765㎡

生産科学科棟  
RC・S造：3F  
3,765㎡



食品科学科ラウンジ



生産科学科ラウンジ